



「THE WATCHMAKER OF WATCHMAKERS」

ジャガー・ルクルトが追求する卓越性へのマニフェスト

キム・ウビンとアニャ・テイラー＝ジョイが登場する新しいフィルム

この秋、ジャガー・ルクルトは、忍耐強く、おごることなく、献身と情熱によって卓越性を追求するという、190年の歴史を通じてグランド・メゾンを導いてきた価値観を称える新しいフィルムを発表します。ジュウ溪谷にあるマニュファクチュールの扉の奥では、技師や時計職人、そしてその他のさまざまな職人たちが、卓越したノウハウの伝統を何世代にもわたって築き上げてきました。180種類もの専門技術を網羅するそのノウハウによって、ジャガー・ルクルトは無限とも言える可能性を切り拓いています。

およそ2世紀に渡り、マニュファクチュールは1,400を超えるキャリバーを世に送り出してきました。これは時計製造の世界において類を見ない偉業であり、430以上の特許の内の多くが時計製造の歴史に名を残しています。ジャガー・ルクルトは、自社のタイムピースのみならず、時計製造界の他の一流メゾンの腕時計にも搭載されている、世界的に名高いムーブメントの設計、製造、組み立てを行ってきました。そのため、ジャガー・ルクルトはウォッチメーカーの中のウォッチメーカーとして知られています。

卓越性の出発点に捧ぐ

ジャガー・ルクルトは、時計製造において、いかなる創造活動でも、熟練した技を得るには忍耐と献身が求められると信じています。大いなる偉業は、日々、小さな達成を重ね、才能を技術へと発展させることによって成し遂げられるものです。努力とコミットメントを支えるのは情熱であり、ひらめきの瞬間は学び続けた年月があつてこそ訪れます。高度な技術は、長年の研鑽によって無数の小さな成功を積み上げたところに確立されます。卓越性とは、一歩ずつ進化を遂げていくものなのです。音楽、芸術、パフォーマンス、文学、デザインがそうであるように、時計製造においてもそれは変わりません。これこそが、ジャガー・ルクルトのマニフェストです。

2023年秋、ジャガー・ルクルトは新しいフィルムにグローバルアンバサダーのキム・ウビンとアニャ・テイラー＝ジョイを起用します。このフィルムは、成功の根源にあるものを見つめ直し、誰



の目にも触れることのない努力を称えるものです。身振りや動き、カメラに向かって発せられる言葉。それらを完璧なものへと導く研鑽の日々に光を当てます。

この新しいショートフィルムは、レニー・クラヴィッツとアニャ・テイラー＝ジョイを迎えた前回のキャンペーンビデオの続きから始まり、レベルソが引き続きビジュアルストーリーの要となっています。現実と非現実、超現実が交錯する幻想的な世界は、巨大なバックライトのキューブが特徴のミニマルなセットを背景に、キム・ウビンとアニャ・テイラー＝ジョイに視線が注がれ、彼らのストーリーが紡がれていきます。そのストーリーは見る人にパワフルなメッセージを伝えるものです。二人がその創造性をごく自然に発揮できるのは、人の目には触れない陰での努力があるからであり、それは時計製造の技とクラフトにも通じています。

熟練のメタファー

最新フィルムで、キム・ウビンの手首を飾るのは、技術的に洗練されたステンレススチール製のレベルソ・トリビュート・クロノグラフ。アニャ・テイラー＝ジョイは、上品でフェミニンなピンクゴールド製のレベルソ・クラシック・スモール・デュエットを身に着けます。2人の力強く美しいポートレートと、2つの時計のムーブメントのクローズアップが、ジャガー・ルクルトのすべてのタイムピースが体現する創造への情熱と技術面におけるノウハウを伝えています。

レベルソ・トリビュート・クロノグラフは、サンレイブラッシュ仕上げを施した控えめなアールデコ調の表ダイヤルを備えています。ダイヤルを反転させると、スケルトン加工と緻密な装飾を施したクロノグラフを擁する裏ダイヤルが現れます。ムーブメントのキャリバー860は、長方形ケースに円形のクロノグラフ表示を収納するという課題へのエレガントで創造的な答えとなっています。ダイヤル上部には大きなクロノグラフ秒表示、ダイヤル下部には弧を描くレトログレード30分表示が取り付けられています。

昼夜を問わず身に着けることのできるデザインのレベルソ・クラシック・スモール・デュエットは、異なる個性を表現する2つのダイヤルと、ポリッシュ仕上げのゴールド製リンクで作られたブレスレットを備えています。シルバーの表ダイヤルには、そのクラシカルで落ち着いたスタイルに調和するサンレイブラッシュ仕上げが施されています。一方の裏ダイヤルは、ダイヤモンドがセットされたゴドロン装飾がブラックラッカーのドラマチックな表情を際立たせています。

レベルソは1931年の誕生以来、革新の精神によって常に進化を続けてきました。フィルムに登場する2つのモデルはレベルソの無限の可能性を象徴し、技術革新と美しいスタイルの両面において卓越性を追い求めるジャガー・ルクルトの終わりのない旅を物語っています。



ジャガー・ルクルトのマニフェスト

卓越性は決して偶然の産物ではありません。

卓出した匠の技へと昇華させるのは**革新的な創意工夫**。

正しい方法で取り組むことは私たちの献身の現れです。

何年にもわたる**努力**が完璧なジェスチャーへと結実します。

卓越性に到達するには時間がかかります。

成果の裏には、そこへと導いた仕事が見えます。

ジャガー・ルクルト、ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー。

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の壮大な景観からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニュファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニュファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさを独特で控え目な洗練を組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。時代を超え、常に時と共にあります。

キム・ウビンについて

韓国を代表する俳優であるキム・ウビンは、2011年のテレビドラマ『ホワイトクリスマス』で俳優としてのキャリアをスタートしました。『紳士の品格』（2012年）でさらに知名度を上げ、『ゆれながら咲く花』（2013年）、『相続者たち』（2013年）、『むやみに切なく』（2016年）でブレイクしました。その後、『チング 永遠の絆』（2013年）や『技術者たち』（2014年）、『二十歳』（2015年）など数々のヒット作に出演しました。6年間活動を休止していましたが、テレビシリーズ『私たちのブルース』（2022年）とチェ・ドンフン監督の『エイリアン（仮）』（2022年）で俳優業に復帰し、いずれも韓国内外で大成功を収めました。最近では、今年5月に公開された Netflix オリジナルシリーズの SF シリーズ『配達人 ～終末の救世主～』に出演しています。ファッションとライフスタイルのアイコンとして、アジア全域で絶大な人気を誇っています。



アニャ・テイラー=ジョイについて

1996年、イギリス系アルゼンチン人の両親が訪れていたマイアミで生まれたアニー・テイラー=ジョイは、ブエノスアイレスとロンドンで育ち、スペイン語を母国語とします。15歳までバレリーナのトレーニングを受けていた彼女は女優へ転身し、2015年にロバート・エガース監督作品の『ウィッチ』で圧倒的な演技を見せ、絶賛を浴びました。エドガー・ライト監督の『ラストナイト・イン・ソーホー』（映画の中で彼女は魅力的な歌声を披露）など、その後の演技でも引き続き高い評価を得ました。2020年、Netflixのヒット作品『クイーンズ・ギャンビット』で一躍スターダムにのし上がった彼女は、天才チェスプレイヤーのベス・ハーモン役の魅力的な演技で、ゴールデングローブ賞、全米映画俳優組合賞、放送映画批評家協会賞を受賞しました。その後、ロバート・エガース監督の『ノースマン 導かれし復讐者』に出演しました。2022年には、デヴィッド・O・ラッセルが監督を務め、クリスチャン・ベールやマーゴット・ロビーが出演するコメディホラー映画『アムステルダム』と、マーク・マイロッドが監督を務め、レイフ・ファインズ、ニコラス・ホルトが出演する『ザ・メニュー』に出演。『ザ・メニュー』では、ゴールデングローブ賞にノミネートされました。最近では、映画『マッドマックス 怒りのデス・ロード』の前日譚であり、彼女が主演を務める『フェリオサ』の撮影を終了しました。この作品は2024年5月公開予定です。